

<日本レジャー・レクリエーション学会第42回学会大会

基調講演 於：上智大学>

春川世界レジャー会議 2010 の成果と レジャー・レクリエーションの価値・機能

金 俊 希¹

Review of 2010 World Leisure Congress ChunCheon, Korea and value and function of leisure and recreation

Kim, Jun-hi¹

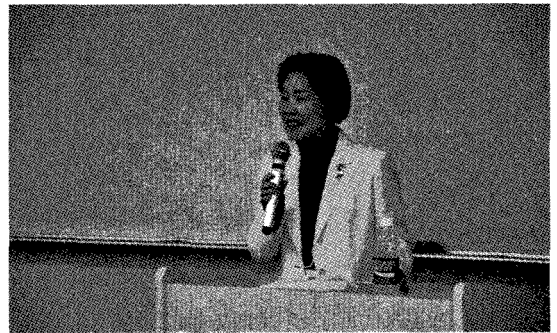
世界レジャー会議は、“レジャー活動を通じた人類の豊かな生活の追求”をすることを目的に創設された世界レジャー機構(WLO)によって2年に1回大陸別に循環開催されているレジャー分野の最高の権威をもつ学術会議である。1988年カナダのレイクルイーズの第1回目の会議以来、2012年イタリアのリミニ(Rimini:9月30日~10月3日)まで、12回目の会議がつづけられている。

こうした、20年余りの歴史の中で、2010年度に韓国の春川(ChunCheon)で開かれた11回目の会議は記念すべき大会であった。この大会では、従来世界レジャー会議のみが行われたものに対して、「ワールドレジャーゲームズ」という競技大会を共に開催した初の大会であった。

1. 第11回 春川世界レジャー会議

第11回目の世界レジャー会議は、韓国の江原道に位置する春川市(ChunCheon)で2010年8月28日から9月2日までの6日間行われた。開催地の春川市は首都圏から1時間ほどに位置し、山、川、湖水など恵まれた自然条件を備えている観光地である。日本ではドラマ“冬のソナタ”の撮影地として知られている。

春川市は2004年、世界レジャー会議を開催す



金俊希 名誉会長

る意向を表明した。そしてこの大会を通して韓国レジャー市場の拡大と春川を世界的なレジャー都市に発展させることを目指して誘致活動を始めた。当時春川のほか、スウェーデンのマルメ(Malmo)とイタリアのリミニ(Rimini)も大会の誘致を宣言した。しかし、世界レジャー機構(WLO)は、レジャーの理解者をアジア圏にも拡大したいことと、レジャーの認知向上を目指す上で、韓国の春川を開催地として選んだ。

春川世界レジャー会議は、「余暇とアイデンティティ(Leisure and Identity)」をメインテーマに開催された。そして、「余暇と文化アイデンティティ」、「余暇と国家アイデンティティ」、「余暇と世界・地域アイデンティティ」という小テーマを

1 韓国レジャー・レクリエーション学会名誉会長、龍仁大学教授
Honorary President of Korea Society of Leisure and Recreation, Professor of Yong In University

もって学術大会が進行された。

大会には40カ国からのレジャー関連研究者、政府関係者、企業人、学生など約3,150名が参加した。8月28日から受付を開始するとともに前夜祭を行い、29日に開幕式や基調講演を開催した。引き続き9月2日まで、多様なセッションやワークショップ、シンポジウムなどが行われた。この会議では750編という多くの論文が発表され、世界レジャー会議史上最大の学術大会となった。

2. 第1回 春川ワールドレジャーゲームズ

第11回春川世界レジャー会議の一番大きな特徴は、並行して「第1回春川ワールドレジャーゲームズ」(1st World Leisure Games ChunCheon 2010)が初めて開催されたことであった。これは春川市の提案によって世界レジャー機構と共催した競技大会である。世界67カ国から14,927名が参加し、「体験による生活の向上」をテーマに2010年8月28日から9月5日までの9日間開催された。

春川市はこの競技大会を通じて、春川市の国際的なレジャー都市としての位置づけを高めるのは勿論、春川市民の暮らしの質の向上や国内レジャーに対する底辺認識の拡大、レジャー産業の基盤構築やレジャー施設の拡充、レジャースポーツの活性化など、韓国のレジャー全般における発展のきっかけになることが期待された。

この競技大会の競技施設は、春川市の川や山などの自然環境を最大に活かして設計され、ボート競技やパラグライダー競技などに利用された。また、既存のソナム・スポーツタウンを利用することで、施設建築にかかる経済的な負担を緩和し

た。

競技種目の選定においても、春川の地域的特長を活かすことにした。種目は大きく分けて国際大会種目9種目、国内大会種目6種目とし、計15種目を選出した。別の観点から分類すると、空中種目3種目、陸上種目9種目、水上種目3種目となる。

今回の競技大会は、世界初のレジャー競技大会として多くの国からの選手が参加し、競い合う国際大会となった。世界のトップレベルの選手らが参加したのは勿論、特にタンススポーツやスポーツクライミング、水上スキーやウエークボードは韓国国内で初めて行われるワールドカップ規模の国際大会だったため、大変意義深いものであった。この競技大会の誘致が成功したことにより、レジャーに対する人々の関心が向上し、それをもとに国内レジャー市場が拡大し、関連産業が発展する契機を作ることとなった。

3. 2010 春川世界レジャー展示会

第11回春川世界レジャー会議のもう一つの大きな特徴は、レジャー展示会を行ったことである。国内95の機関と企業、300余の広告ブースが設置され、連日10,000人という多くの観光客が訪れた。この展示会では、レジャー用品の紹介やレジャースポーツの変遷などの企画展示も行われたが、もっとも注目されたのは見る展示に留まらず、体験できる展示会だったことである。ただ見て終わるのではなく、実際に身を持って体験できる多様なプログラムを設け、子供から大人まで楽しめる展示会をつくり上げた。また、音楽やダンスなどのさまざまな文化公演を通した楽しみを提供し

「第1回春川ワールドレジャーゲームズ種目一覧」

空中種目	陸上種目	水上種目
1. 模型航空機 2. パラグライディング 3. 動力パラグライディング	1. インライン・マラソン 2. インライン・スラローム 3. インライン・トラックロード 4. B3 (ローラブレード、スケートボード、BMX) 5. タンススポーツ 6. スポーツクライミング 7. ビリヤード 8. 足球 9. ビーボーイ	1. スポーツフィッシング 2. 水上スキー 3. ウェークボード

たことも、多くの観光客が会場に足を運ぶ原因となった。

本大会は、レジャー学からレクリエーション、公園、観光、保健、心理学、ホテル経営学などレジャーと関連するすべての分野の学問領域を扱う国際的な学術行事として、今後のレジャー学の流れを伺えることで国内外の関心が集まった大会であった。さらに初めて行われたワールドレジャ

ーゲームズは、理論的レジャーと実践的レジャーが創り上げたレジャーの新しいジャンルとしてその価値が認められる行事であった。そして、今大会のもっとも重要な意義は、レジャーを皆が楽しめる文化であることを一般の人々に知らせたことと、レジャーを実際の生活の中で生かそうとする人々の認識の変化にあったと言えよう。

